

朝の打ち合わせ（９月２２日（水）） 校長より

<頑張れ、３年生！>

- 入社試験、大学受験等スタート。応募前職場見学、調査書作成、作文添削、一般常識問題演習、模擬面接指導など、さまざまな事前指導、ありがとうございます。
- 試験結果が出てからの事後指導もていねいをお願いします。変化を見逃さない、声かけはていねいに、目配り・気配りなどをお願いします。
- 引き続き、３年生の希望進路（就職・進学）実現に向けて学校全体で指導・支援していきましょう。
- 進路に係るミスの未然防止（複数による点検、思い込みやうっかりはダメ）。

<たいまつ>

- 教育という仕事は、「たいまつ」が世代を超えて継承されるようにすることかもしれません。
- では、継承さるべき「たいまつ」とは何か。パブリックな継承、非個人的な大きな意味での継承や、「生き方」も継承の対象となるのかもしれません。

<感染リスクの高い学習活動>

- ２４日（金）から、県北地区及び県南地区（郡山市、須賀川市、鏡石町、三春町のみ）の県立学校において、感染リスクの高い学習活動を段階的に再開可能となる。
- いわき地区と広野町の県立学校においては、引き続き、感染リスクの高い学習活動停止などを継続。

朝の打ち合わせ（９月２１日（火）） 校長より

<感染リスクの高い学習活動>

- 本日２１日（火）から、福島、郡山、いわきの中核市３市と、３市周辺の８町村を除く県立学校において、感染リスクの高い学習活動を段階的に再開可能となる。
- 福島、郡山、いわきの中核市３市と、３市周辺の８町村の県立学校においては、引き続き、感染リスクの高い学習活動停止などを継続。
- 少しでも体調が悪い場合は出勤・登校を控え、早めに医療機関を受診するように。

<セクハラ・パワハラ調査結果>

- 県教委は、県内の公立学校全教職員を対象に初めて実施したセクハラ・パワハラに関する調査について、その結果を発表した。
- 「信頼される学校づくりを職場の力で」(県教委作成)にあらためて目を通し、セクハラ・パワハラ等のハラスメントを防止したい。

朝の打ち合わせ（９月１６日（木）） 校長より

<SOGIとは>

- SOGIとはLGBTなどと呼ばれる性的少数者かどうかに関係なく、すべての人が持つ性別や性的指向に関わる概念を指す。
- 日ごろから、SOGIも意識した言動を行うようにしたい。

<震災の記憶>

- 県教委が県立高生を震災・原発事故の語り部として育成する事業を立ち上げた。
- 「３．１１」「４．１１」の記憶が少ない生徒が増える中、教訓や復興の過程を理解し、自らの言葉で正しい情報を発信できるよう育成することは重要。

朝の打ち合わせ（９月１５日（水）） 校長より

- 教職員については、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗い等、基本的感染対策を徹底するとともに、出勤前の検温など日常的な健康状態の確認を通じて、発熱等体調に異変を感じた場合は、出勤しないようにするなど、引き続き感染拡大防止に努めていく。

朝の打ち合わせ（９月１４日（火）） 校長より

- コロナ禍でいろいろ大変ですが、前へ進んでいきましょう。
 - ・前向きなこと、楽しいことを考える。
 - ・ああすればよかった、こうすればよかったと自分で悩みをつくらない。
 - ・状況がどれほど否定的であれ、肯定的な要素は常にあると考える。

朝の打ち合わせ（９月１０日（金）） 校長より

- ３日、３週間、３か月。何事も３の付く日が大切。
- ２学期がスタートして３週間。生徒も先生も疲れが出る頃ではないでしょうか。土日はゆっくり休んで、心身ともにリフレッシュしてください。

朝の打ち合わせ（９月９日（木）） 校長より

<備えあれば憂いなし>

- 感染症対策と教育活動の両立は喫緊の課題。グーグルなど、オンラインを活用した学習支援も含め、学びを止めないよう、日ごろからしっかり準備しておきたい。
- 明日、ＩＣＴ支援員による校内研修があるので、ぜひ活用願いたい。

<研究授業（９月８日（水））>

- 日本史Ａの研究授業、ありがとうございます。
 - ・目標がはっきりしており、目標達成に向けて、指導と評価が着実に行われていた。
 - ・生徒のさまざまな疑問に適切に応答できることから、生徒も先生を信頼し、発言も積極的であり、安心して授業に参加していた。
 - ・授業のポイントを整理したワークシートを活用することで、授業の流れをつくりながら、資料等を上手に活用し、授業の深まりをつくっていた。
 - ・電子黒板やｉＰａｄを活用し、主体的・対話的で深い学びとなるよう、授業をデザインしていた。
 - ・特に、近世と近代の違いを発表する場面で、ｉＰａｄを効果的に活用し、思考・判断・表現力等の育成につなげていた。
 - ・本時が次時にどのようにつながるかについてしっかり生徒に伝わっていた。
 - ・生徒に示す本時のねらいは、育成する資質・能力を踏まえ、生徒の目線で、できるだけ具体的に示したい。また、１時間の評価規準は１～２に絞り込みたい。
- ２学期中に、他教科でもぜひ研究授業を実施願いたい。